

2025 年 7 月 2 日 全 8 頁

消費データブック（2025/7/2 号）

個社データ・業界統計・JCB 消費 NOW から消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 菊池 慈陽

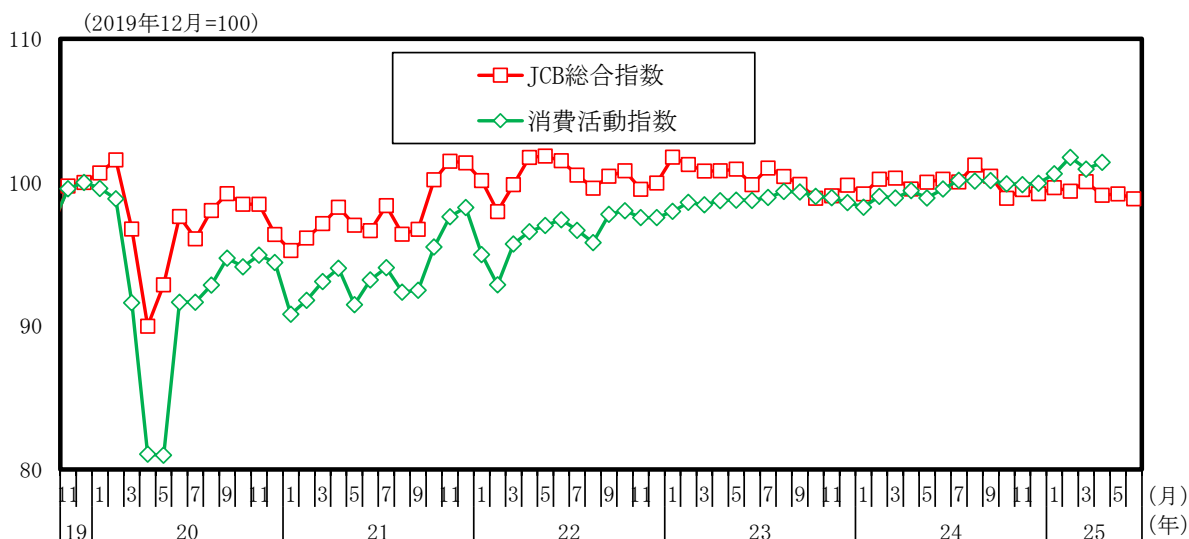
[要約]

- 2025 年 5 月の消費は 4 月から横ばい圏で推移したとみられる。財消費は概ね横ばいだった。新車販売台数（大和総研による季節調整値）やスーパーの販売額は前月から小幅に減少した一方、コンビニの販売額は増加した。百貨店の販売額は、インバウンド消費の減少の影響を除くと横ばい圏で推移している。他方、サービス消費は小幅に増加した。新幹線輸送量や宿泊者数、外食産業売上高はいずれも前年比の伸び率が前月から拡大した。
- 6 月の消費は 5 月から横ばい圏で推移したとみている。財消費は概ね横ばいだった。JCB の家電消費額（大和総研による季節調整値）は前月から減少した一方、新車販売台数（同）は増加した。他方、サービス消費も概ね横ばいだった。JCB のサービス消費額（同）は前月から小幅に減少した。他方、JCB 宿泊消費額（同）と JCB 外食消費額（同）は増加した。

＜消費全体の動き＞

- ◆【JCB 総合指数】 25 年 6 月の JCB 総合指数¹（月前半の実績に基づいた大和総研による試算の季節調整値、JCB データは以下同）によると、実質消費額は前月比▲0.3%と小幅に減少した。内訳を見ると、財は同▲0.0%とほぼ横ばいだった一方、サービスは同▲0.4%と小幅に減少した。

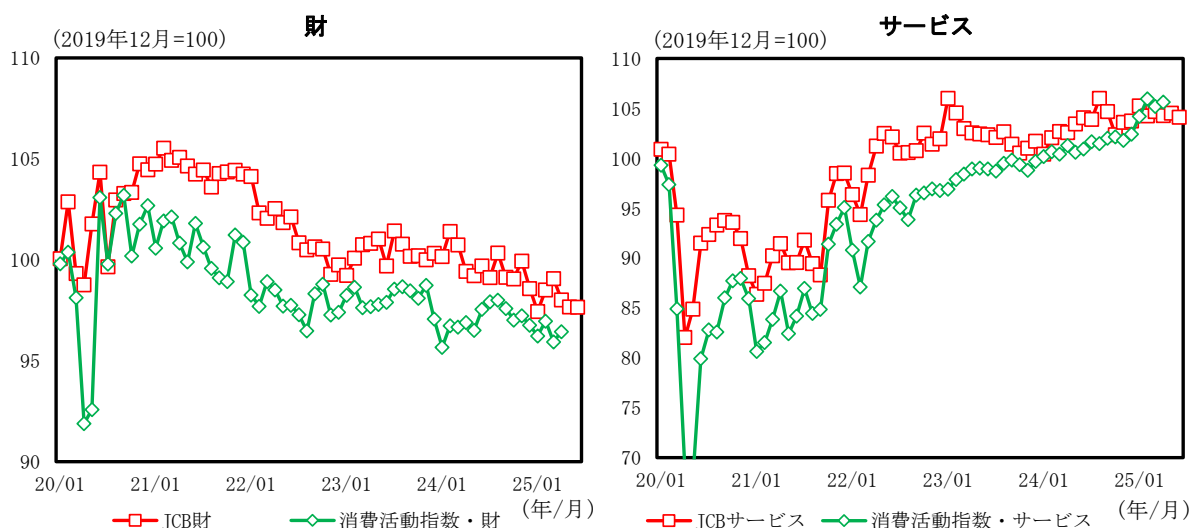
図表 1：消費活動指数・JCB 総合指数



（注）JCB 総合指数は大和総研による季節調整値。CPI で実質化。25 年 6 月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算（物価上昇分を調整）。

（出所）日本銀行、総務省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

図表 2：財・サービス別に見た消費の動き



（注 1）JCB 財指数・JCB サービス指数は大和総研による季節調整値。CPI で実質化。25 年 6 月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算（物価上昇分を調整）。

（注 2）財の消費活動指数は、当該指数の耐久財・非耐久財を形態別ウェイトで加重平均したもの。

（出所）日本銀行、総務省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

¹ JCB グループ会員の中からランダムに抽出された約 1,000 万会員を対象に、ナウキャスト社が作成・公表している消費指数。

＜小売関連＞

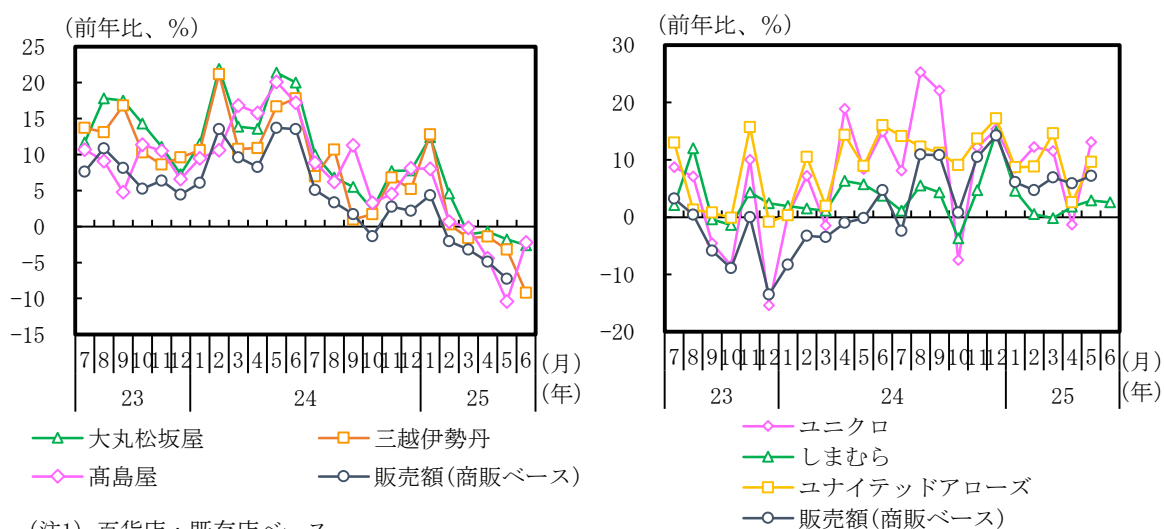
- ◆【百貨店】 25年5月の百貨店商品販売額（商販ベース）は前年比▲7.3%と、4カ月連続で減少した。減少幅も4カ月連続で拡大した。業界統計から内訳を見ると、身のまわり品（同▲21.1%）と衣料品（同▲7.0%）がいずれも4カ月連続で減少し、全体を押し下げた。

25年6月の百貨店大手3社の既存店売上高は前年比▲9.2～▲2.2%と、いずれも4カ月連続で減少した。このところマイナス圏で推移している主因は、インバウンド消費の減少だ。インバウンド消費の中心がラグジュアリーブランドからカジュアルブランドに移っており、前年から客単価が低下している。この影響を除くと、国内顧客への売上は横ばい圏で推移しているとみられる。大丸松坂屋では外商売上が好調を維持しているほか、三越伊勢丹では国内顧客の高付加価値商品への関心が高まっているようだ。

- ◆【アパレル】 25年5月のアパレル販売額（商販ベース）は前年比+7.2%と、10カ月連続で増加した。増加幅は前月から拡大した。24年8月以降は前年比でプラスが続いており、増加基調にある。

25年6月のアパレル大手しまむらの既存店売上高は、前年比+2.6%と3カ月連続で増加した。6月中旬に気温が上昇したことで、冷感商品が好調だった。

図表3：百貨店・アパレルの販売額



(注1) 百貨店：既存店ベース。

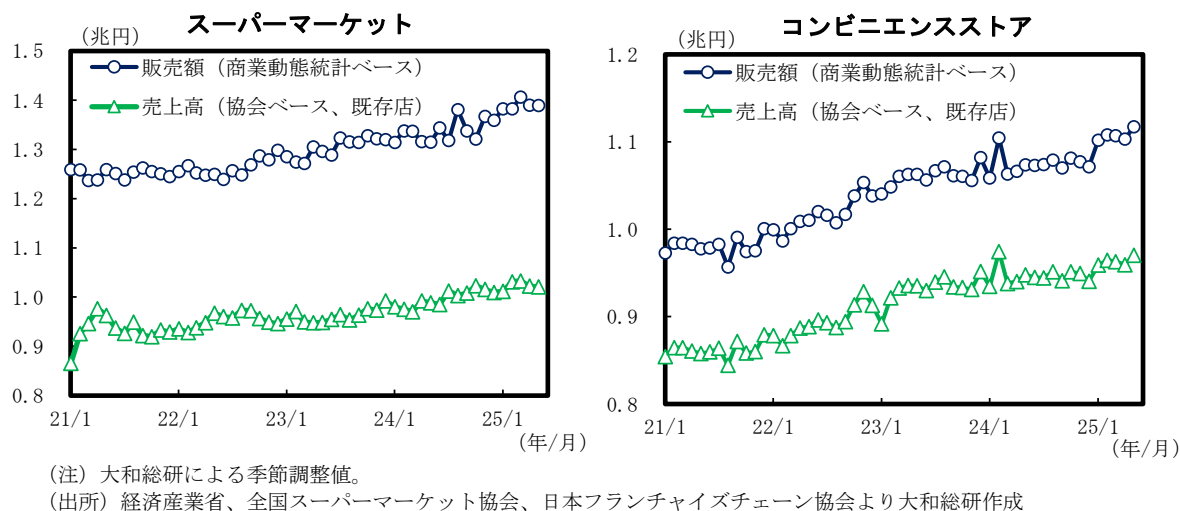
(注2) アパレル：既存店ベース(含むネット通販)。しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値。

(注3) アパレル販売額(商販ベース)は、商業動態統計の「織物・衣服・身の回り品小売業」を参照。サンプル替えの影響を除いている。

(出所) 経済産業省統計、各社資料より大和総研作成

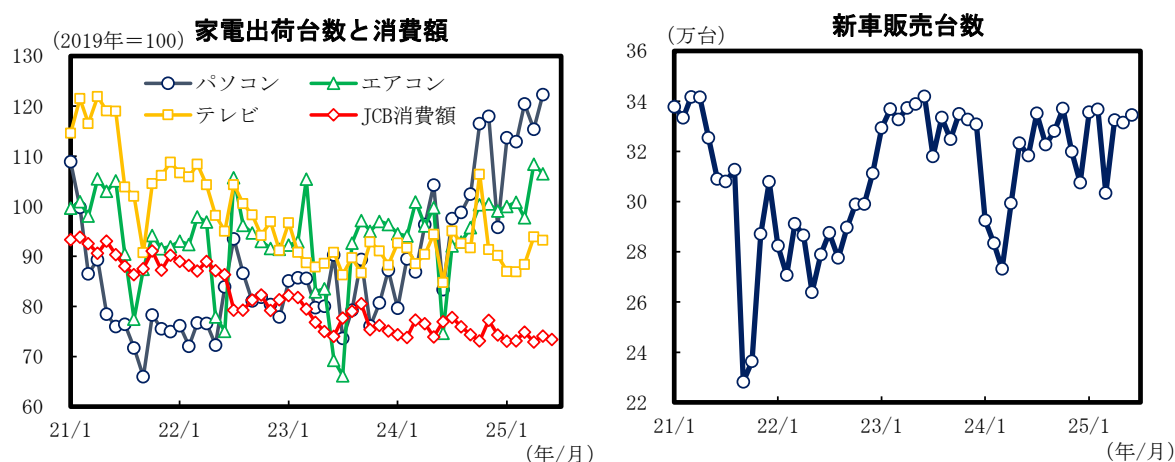
- ◆【スーパーマーケット】 25 年 5 月の販売額は前月比▲0.1%（大和総研による季節調整値）。飲食料品（同▲0.3%）などの販売額が減少した。
- ◆【コンビニエンスストア】 25 年 5 月の販売額は前月比+1.3%（大和総研による季節調整値）。サービス（同+34.3%）が大きく増加し押し上げたほか、食品を中心とした財の販売額（同+0.2%）も増加した。

図表 4：スーパーマーケット・コンビニエンスストアの売上高



- ◆【家電】 25 年 5 月の出荷台数はパソコンが前月比+6.0%、エアコンが同▲1.8%、テレビが同▲0.7%（いずれも大和総研による季節調整値）。エアコンとテレビは4月にいずれも大幅に増加した割に、減少幅は小さかった。
25 年 6 月の JCB 消費額（機械器具小売業）は前月比▲0.9%と2カ月ぶりに減少。
- ◆【自動車】 25 年 5 月の新車販売台数（大和総研による季節調整値）は、前月比▲0.3%と2カ月ぶりに減少した。3月初めに部品会社の工場で事故が発生し、複数のメーカーで一部生産ラインが稼働停止していたが、その反動で4月は同+9.6%と前月から増加していた。25 年 6 月は前月比+0.9%だった。

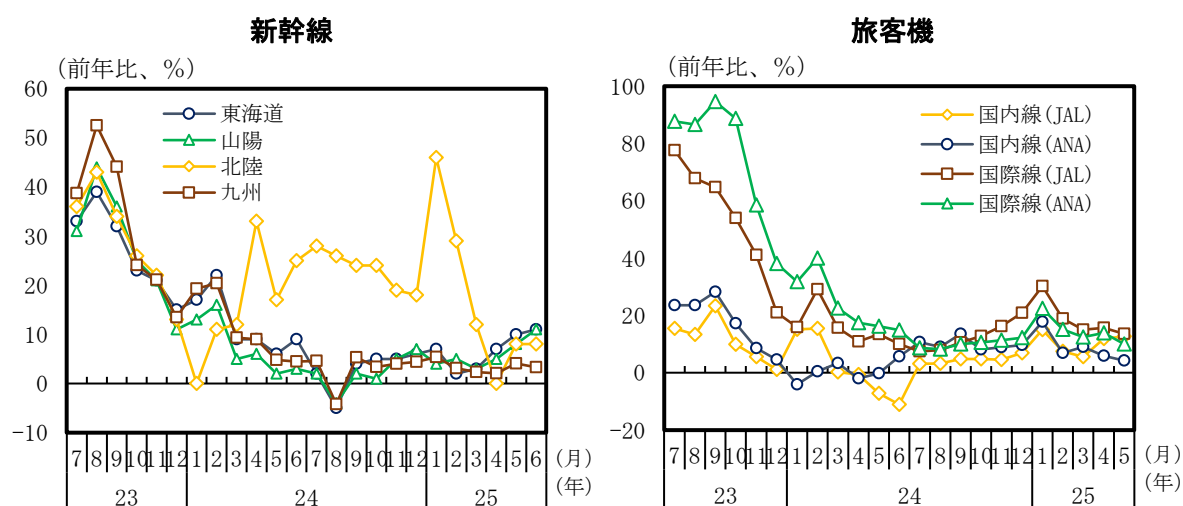
図表 5：家電出荷台数と新車販売台数



＜サービス関連＞

- ◆【新幹線】25年5月の輸送量は、東海道・山陽・九州新幹線は前年比+4～10%程度だった。いずれも伸び率が前月から拡大した。北陸新幹線は同+8%と、同ゼロ%程度だった4月から加速した。24年3月に金沢・敦賀間が延伸開業されてから1年超が経過する中、堅調に推移しているといえよう。
- 25年6月は、東海道・山陽新幹線はいずれも前年比+11%程度だった。東海道新幹線は4カ月連続、山陽新幹線は3カ月連続で伸び率が前月から拡大した。他方、九州新幹線は同+3%程度と伸び率が縮小した。北陸新幹線は同+8%と5月並みの伸び率を維持している。
- ◆【旅客機】25年5月の国内線輸送量（含むグループ会社）は、ANAが前年比+4.2%、JALが同+12.7%だった。24年中頃以降は前年比でプラスを維持し、堅調に推移している。国際線輸送量（同）は、ANAが同+10.0%、JALが同+13.5%だった。いずれも21年4月以降は前年比でプラスを維持しており、特に24年9月以降は同+10%以上の伸びが続いている。

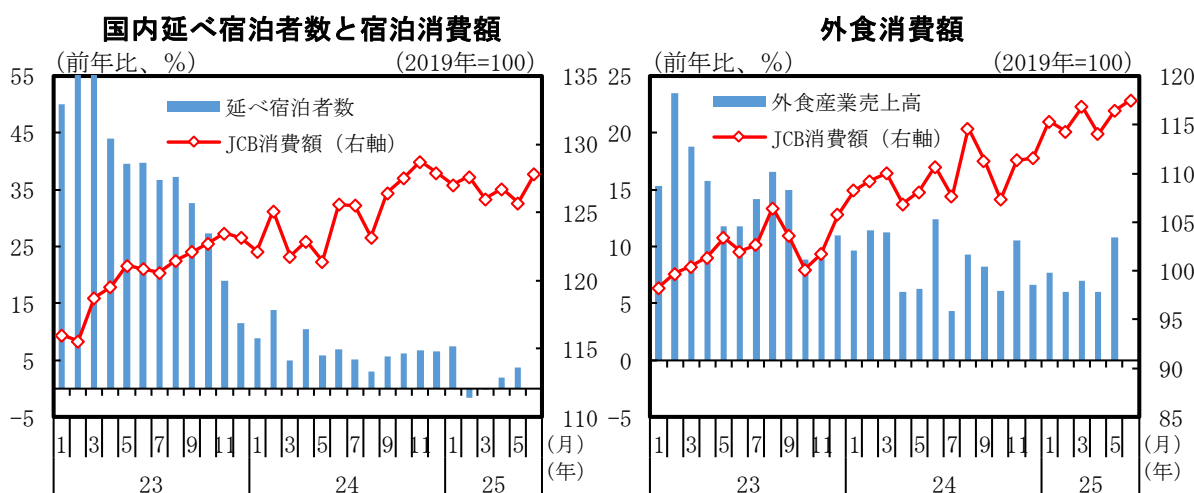
図表6：新幹線・旅客機の利用状況



(注) 25年6月の東海道は17日、山陽・北陸は7日、九州は25日まで。JAL・ANAのデータはグループ会社を含む。
(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】 25 年 5 月の宿泊者数（観光庁、宿泊日数ベース）は前年比+3.7%と、前月からプラス幅が拡大した。2、3 月は前年比でマイナスだったほか、4、5 月はプラスながら増加幅は大きくないことから、コロナ禍からの回復局面は概ね終了したといえよう。
25 年 6 月の JCB 宿泊消費額は、前月比+1.7%と 2 カ月ぶりに増加した。均して見ると、24 年末から横ばい圏で推移している。
- ◆【外食】 25 年 5 月の外食産業の売上高は前年比+10.8%と、前月からプラス幅が拡大した。21 年 12 月以降、前年比プラスが続いており、足元でも増加基調を維持している。
25 年 6 月の JCB 外食消費額は前月比+0.9%と、2 カ月連続で増加した。

図表 7：国内延べ宿泊者数と宿泊消費額（左）、外食消費額（右）



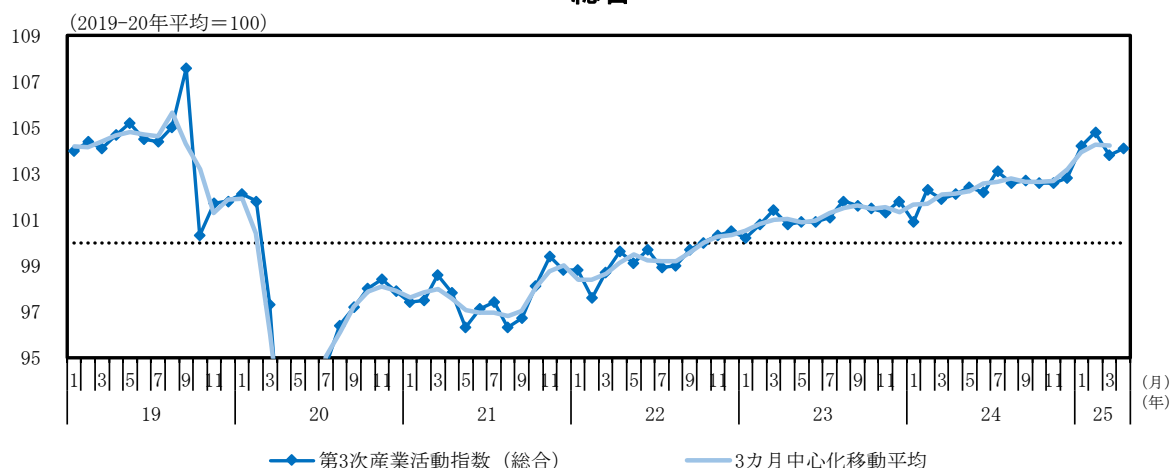
(注) 大和総研による季節調整値。25年6月分のJCB消費額は月前半のデータをもとに伸び率を試算。観光庁統計は宿泊日数ベースのデータを用いている。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、株式会社ナウキャスト/ JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

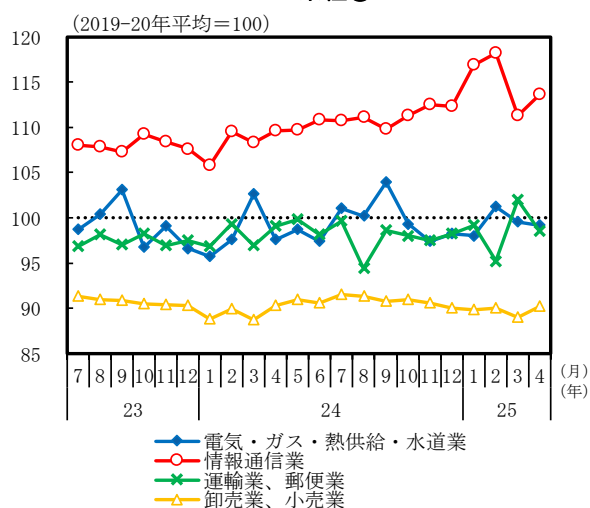
<参考：第3次産業活動指数>

図表 8-1：第3次産業活動指数

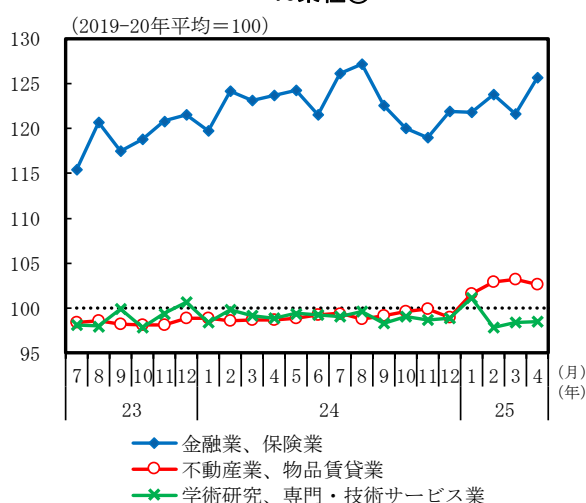
総合



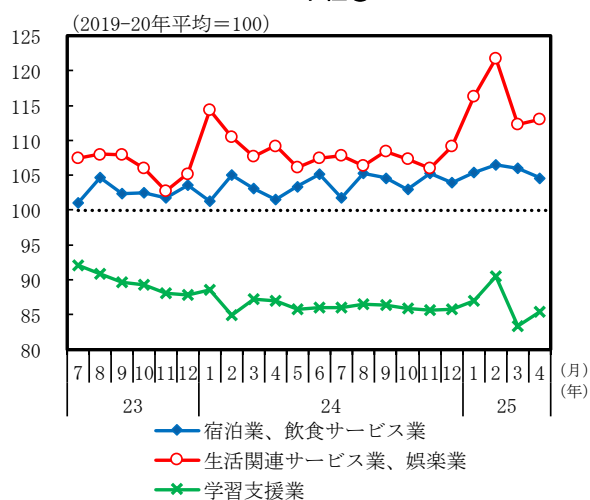
13業種①



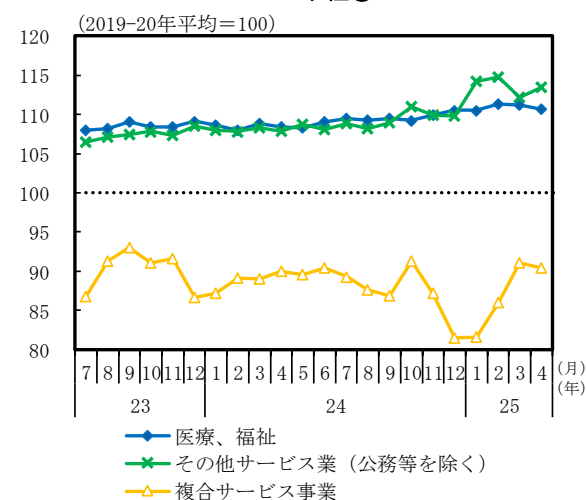
13業種②



13業種③



13業種④

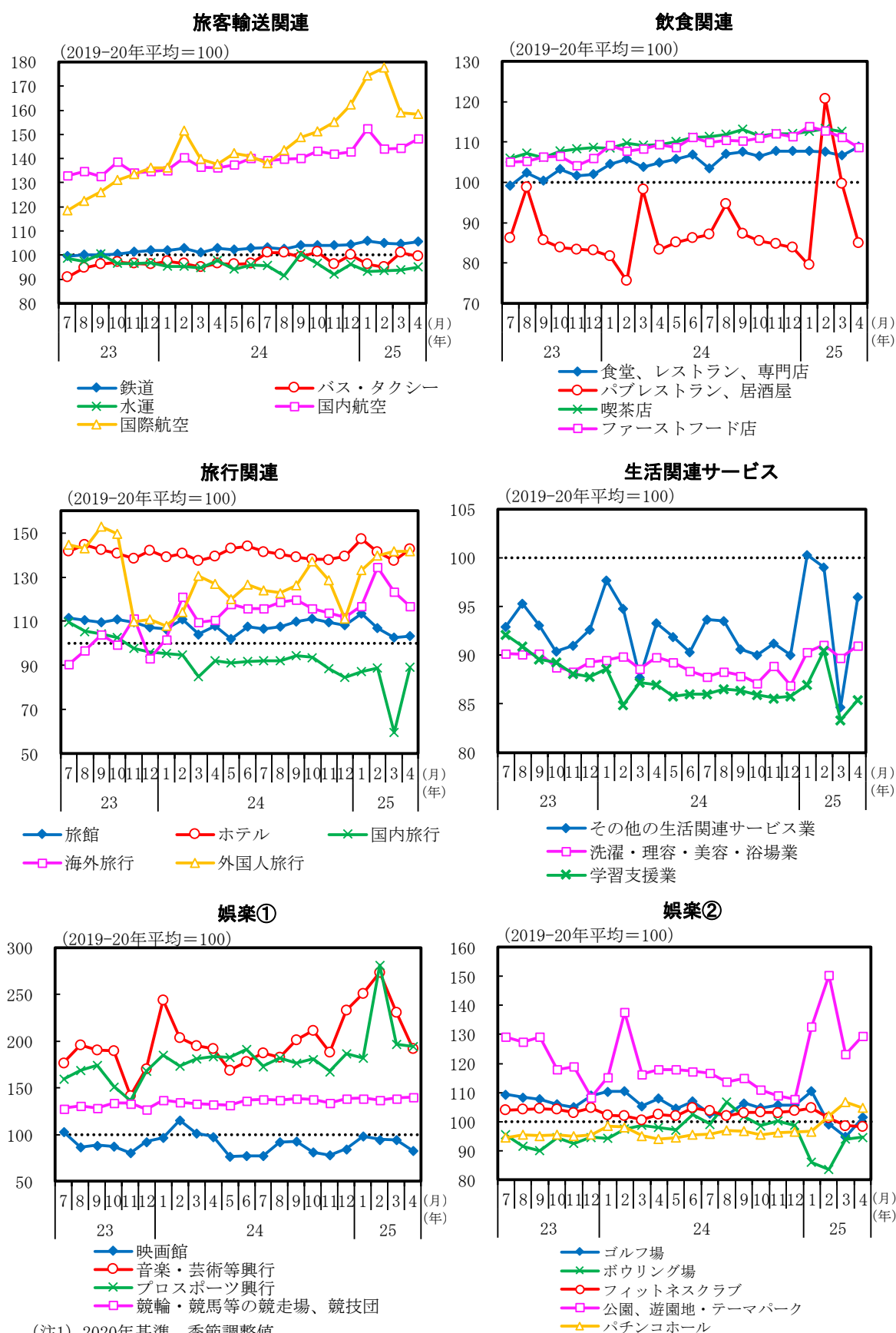


(注1) 2020年基準、季節調整値。

(注2) 13業種は、第3次産業活動指数の対象となっている日本標準産業分類の大分類13項目。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

図表 8-2：運輸業・生活関連サービス業などにおける活動指数の推移



(注1) 2020年基準、季節調整値。

(注2) 生活関連サービスの「その他生活関連サービス業」は、冠婚葬祭業や写真業など。

(出所) 経済産業省より大和総研作成